

NewsLetter

C O N T E N T S

ニュースレター

Vol.2

2017.3.10

市民

SAPOSEN

ふくしま地域活動団体サポートセンター

- p2 — ● 福島県NPOのつどい
- p4 — ● NPOのマナビバ
～平成28年度 講座開催一覧～
- p6 — ● 組織基盤がみんなのチカラ～認定NPO法人の紹介～
認定特定非営利活動法人 **キャリア・デザイナーズ**
認定特定非営利活動法人 **ふくしま成年後見センター**
- p8 — ● 魅力ある地域づくりはNPOからはじめよう
特定非営利活動法人 **よつくらぶ**
- p9 — ● NPO×若者=復興!! チャレンジインターンシップ
- p10 — ● 「資金調達」を学んでお悩み解決
～NPOの要の1つ“ファンドレイジング”～
- p11 — ● サポセン月報 8月～2月
- p12 — ● NPOと社協の連携作戦会議を終えて
● 助成金情報

福島県NPOのつどい開催報告

於：福島市市民会館
(2月2日)

NPO法人のほか、任意団体、行政や企業等71団体103名が一堂に会しました。

第一部 講演

未来をつくっていくために

講演 「お金をください!」って言えますか?

講師 日本ファンドレイジング協会 認定ファンドレーサー 浅井 美絵 氏

NPO活動の充実と持続性に視線を向けると、何といっても「資金不足」が課題となり、ビジョンが描きにくい団体は少なくないでしょう。今回のつどいの開催にあたり、各地域の中間支援センターからも講演に関して多くの要望を寄せられたテーマは「資金調達」でした。資金調達は手法にとらわれてしまいがちですが、それ以前に活動者である私たちが自信をもって「寄付をください、お金をください」と言えないことにポイントをおいた浅井美絵さんのお話は心理的要因である「心のブレーキ」からはじまりました。配布資料はワーク形式で「あなたにとって、お金とは?」など、自分自身への問いかけが繰り返されていきます。やがて心のブレーキの正体を突き止め、今度はそのブレーキを外していきます。最後にはお金を次の活動への原資として感謝の気持ち

で受け取ること、未来をつくっていくために活動を行っていることへの自信を確認することができました。会場の皆さんはとても興味深くワークシートにペンを走らせていました。さあ、明日からNPO活動をとおした未来への投資「お金をください!」と言える自信と勇気を持ちましょう。



参加者がワークを進めながらの講演会

第二部 資金調達の事例発表

熱心であることと計画性がポイント

事例1) 認定特定非営利活動法人パンダハウスを育てる会

法人設立以前から続けている団体の原点ともいえる資金調達「募金箱」。当初は緑色の木製のシンプルな箱でしたが、創意工夫を重ねて現在の形になりました(写真1)。改善点は①透明で中が見える②視覚的に病児に寄り添う家族の安心できるハウス(宿)をイメージしたデザイン③活動紹介や入会・寄付を受けるためのパンフレット配架ポケット付き。

募金箱は助成金を活用しながらその数を増やし、協力店舗や職場など固定的に設置されているほか、イベントなどを活用できる流動的なものを含めて300個になります。募金の回収はフェイスtoフェイスで行います。丁寧な関係づくりからこの募金活動は広がりを見せ、前年度は約90万円の収入を獲得しました。

また、この活動には1年後、3年後、5年後の増幅計画を立て、その実現に向けて着々と進めていることも成功のポイントの一つです。

信頼の獲得はNPOの財産です。パンダハウスを育てる会はこの募金箱から始まり、現在では認定NPOとしますます発展の期待が高まっています。



▲パンダハウスを育てる会の募金箱

事例2) 特定非営利活動法人つながっぺ南相馬

東日本大震災から9か月後、任意団体として「つながっぺ南相馬」の活動は仮設住宅でコミュニティサロンを開くことからスタートしました。2年後にはNPO法人へと発展しました。今回の発表でもわかるように、活動資金は助成金等の「大口」と寄付金等の「小口」の2つに分けて整理されていることから、今野理事長が現役時代に培ったビジネスのノウハウが活かされ、資金調達は計画的かつ積極的に取り組まれています。

情報収集は熱心に行います。インターネット活用のほか、南相馬市市民活動サポートセンターなどの中間支援団体、出会っていった支援先、連携・協力した企業、行政などから情報を入手します。また、一方ではパンフレットや寄付金の振込用紙を作成し、自分たちの活動や現状を発信することにも努めました。

つながっぺ南相馬の活動はやがて海を越えてアメリカまでつながり、大口の寄付を受けたことで、行政との協働により震災で全壊の被害を受けていた「塚原公会堂」を再建することにも成功しました。

現在も助成金等を受けながら「陽だまりサロン」の運営を進めていくとともに、まちの生活の安心を創出するための生活環境整備にも尽力し、復興への活動は続きます。

◀「つながっぺ南相馬」の今野由喜理事長



課題の共有に白熱したNPO



笑顔あふれる交流のようす▲

第三部では各グループが各地域のNPO中間支援センターや中間支援組織の方々によるファシリテーターの進行で、自己紹介(団体紹介)と現在の課題をテーマに話し合いました。一人(1団体)でも多くつながってほしいという目的から、一度席替えを行い、新しい顔ぶれでさらに交流を行いました。

課題はおもに「人材不足」「高齢化・後継者がいない」「若い力がほしい」「専門性が必要」「NPOの評価が低い」「ノウハウの共有をしたい」「もっとNPOとつながりたい」「資金繰りに苦労」などが共通して多くあげられました。

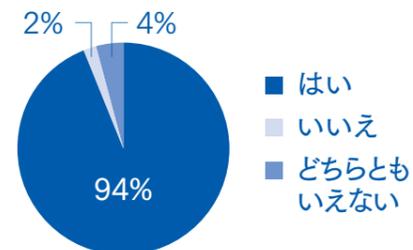
この日、朝から降る雪に窓の景色がどんどん白く覆われていくことも忘れ、会場は熱気に包まれ、参加者の熱い想いにNPOの原点を見ることができました。



▲課題の共有に白熱した会場

福島県NPOのつどいに関するアンケート

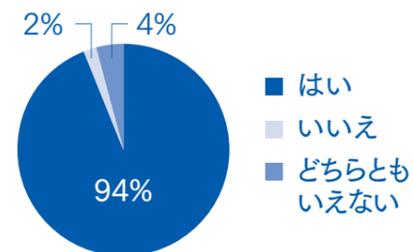
1. 今回の福島県NPOのつどいは皆さんのお役に立ちましたか。



理由

- 様々な立場の団体から、話を聞くことができた
- 普段の関わりがない方々とお話できました
- 県内の団体が一堂に会するには意義があると思う
- 自分たちがやっていることにほこりを持つことが大事だと思った
- NPOの方々の生の声を聞くことができた

2. 今後もこのような機会があったら、参加されますか。



理由

- 今後の活動へのヒントが得られたため
- 実際に活動している方たちとお話しするのは勉強にもなります
- 活動分野の充実、強化の為に地域毎の横連携を拡充する必要があることから
- 県内の様々なNPOや行政、企業の方々とは会うために
- こういった業種をこえて集まれる会は、どんどん開いて欲しいです

3. 本日のつどいの一番良かったところはどのような点ですか。

第一部 講演

- ファンドレイジングの手法についての講座はよくあるが、心理的な部分での話をきいて、興味深かった
- 心のブレーキを外すヒントを学べてよかった
- 社会に役立つことをやっているという再認識

第二部 事例発表

- パンダハウスさんの地道な活動、参考になりました
- 具体例の中にコツやきっかけがあり、ファンドレイジングのやる気につながった
- 人とのつながりは大事だとあらためて思いました

第三部 交流会

- 連携の大切さを再認識しました
- いろいろな活動をしている話が聞かれ、パワーをもらった
- 異なる種類の事業所の方と交流できたこと
- NPO法人の悩みどころをポイントにお話頂きありがとうございました

NPOのマナビバ 平成28年度 講座開催一覧

ご参加ありがとうございました!!

参加者の声

- 講座で知り合った方と今後一緒に活動したり、情報交換ができるようにしたい。
 - 助成金の申請等に必要と考え方を学ぶことができました。
 - もう一度、講座資料を読み直し、これから活かしていきます。
 - 活動に参加して日が浅いのでいろいろと学んで活動に活かしていきたい。
 - 関係者の分析と役割が難しかった。脳みそをフル回転で使いました。
 - 今後の事業につなげていきたい。
 - 若年層を巻き込んだ運営ができるようにSNSを活用したい。
 - またこのような講座に参加したいです。とても勉強になりました。
 - 自分たちの活動のファンを増やすにはどうしたらいいかを考え直すきっかけになった。
- ※各講座受講後アンケートより

① NPOの役員・事務局長講座
機能する事務局と理事会とは？
事務局と理事会のあり方を考える



② SNS講座
つながるツールの使い方学ぼう！
フェイスブック初級～中級編



③ 人材育成講座(6回シリーズ応用編)

- 第1回 10月4日(火) 非営利組織概論
- 第2回 10月18日(火) アイデア発想法入門
- 第3回 11月1日(火) アイデアファシリテーション入門
- 第4回 11月15日(火) プレゼンテーション入門
- 第5回 11月29日(火) コミュニケーション入門
- 第6回 12月13日(火) 企画書・申請書ライティング入門



④ NPOマネジメント講座(6回シリーズ応用編)

- 第1回 10月6日(木) 組織使命
- 第2回 10月26日(水) マーケティング戦略
- 第3回 11月10日(木) ゴール設定
- 第4回 11月22日(火) ファンドレイジング戦略
- 第5回 12月2日(金) 実行計画
- 第6回 12月15日(木) 最終成果発表会



⑤ スペシャリストのためのNPO法人会計基準講座



⑥ NPO基礎講座
市民活動でみんな元気に!! NPOでGO!!



⑦ 理論と事例で学ぶ本物の「ファンドレイジング」
ファンドレイジング・白熱教室



⑧ 福島県NPOのついで
「お金をくたさず」って言えますか?



素晴らしい講座にご協力いただいた講師陣

- | | |
|------------------------------------|--------|
| ① 特定非営利活動法人 山形の公益活動を応援する会・アミル 代表理事 | 齋藤 和人氏 |
| 株式会社 ソーシャルスピーカー 代表取締役 | 久野 雅己氏 |
| ③ 特定非営利活動法人 コースター 理事 | 坂上 英和氏 |
| ④ 株式会社 PubliCo | 堤 大介氏 |
| ⑤ 公認会計士・税理士 | 中村 元彦氏 |
| ⑥ 福島県企画調整部文化スポーツ局 文化振興課 主事 | 横田 雅之氏 |
| ⑦ 一般社団法人 ふくしま連携復興センター 理事・事務局長 | 山崎 庸貴氏 |
| ⑧ 日本ファンドレイジング協会 認定ファンドレーサー | 浅井 美絵氏 |

講師コメント

③ 人材育成講座 坂上 英和氏
(前略) 理事クラスについては(中略)講座の合間で行った会話の中で、自身への学習というより、スタッフの育成の中でノウハウをどう伝えていくための手法を学びに来ていた参加者が多かったように思います。マネージャークラスについては、中間管理職として職員・ボランティアと理事とのコミュニケーションや業務分担について悩まれたようでした。6回の講座を通して、今後の事業計画について、いかに理事に伝える、または、行動を促すのかという視点で学ばれていました。(中略)職員クラスについては、他の業界で活動するNPOとの関わりが少なく、ワークショップの中で、所属

する団体以外の視点を吸収されているようでした。(中略)学んだ知識を実践し知恵に変えていく段階はこれからであり、講座の効果としてまだ図れないものがありますが、当事者意識をもって活動していくための試行特性を参加者が身に着けることができたのではないのでしょうか。

④ NPOマネジメント講座 堤 大介氏
(前略) 本年度の講座で特に力を入れた点が「ロジックモデルの策定」です。ロジックモデルとは日々の活動と団体が掲げるビジョン(社会課題が解決した状態)のつながりを示す「課題解決の設計図」のことです。NPOは自分たちが日々

行う活動が、活動の対象者やボランティア等その他の関係者にどのような変化を起し、最終的なビジョン実現という成果にどうつながっていくのかを見据えた上で活動を行う必要があります。(中略)また、ロジックモデルは団体内のみでなく、団体の外部とのコミュニケーションにも使用できるものです。福島県という地域全体に視点を移してみると、復興というのが地域全体の共通の課題、つまり地域全体のビジョンであると位置づけることもできます。本講座の学びが福島で活動される皆さまにとって地域内での役割を考え続けることにつながれば幸いです。

※コメントは、考察から一部抜粋です



組織基盤がみんなのチカラ

～認定 NPO 法人の紹介～

福島県内には認定NPOが17団体(平成29年3月現在)あります。認定を受けたNPO法人にはどのような発展や変化がみられるのでしょうか。2団体に認定後のようすをお聞きしました。



認定特定非営利活動法人 郡山市 キャリア・デザイナーズ

「認定特定非営利活動法人キャリア・デザイナーズ」は、ニート・ひきこもりなど就労に困難を有し一歩を踏みだせない若者の就労支援、自立支援を行っています。平成20年に法人格を取得、平成27年に認定を取得しました。理事長の深谷昇さんにお話を伺いました。

Q 認定を受けて、どのような効果や事業の展開がありましたか。

A 当法人では、若年無業者の方を対象に、就労体験(ジョブトレーニング)やコミュニケーション講座を実施し、就労自立支援を行っております。「認定」を受けることで、保護者や当事者から、安心して相談したり通うことができる団体、との信頼を得やすくなっていると感じます。

Q 寄付金、会員数、事業収入などに数値の変化がありましたか。

A ニュースレターや面談で寄付の願いがしやすくなりました。寄付者の数も増加しています。その他、保護者・当事者や、ジョブトレーニング受入れを検討している事業所やボランティア希望の方などから、団体や活動について問合せをいただくことが以前に比べて多くなっています。

Q 課題は何ですか。

A 若者の支援は短期間では結果が表れないので、中長期的視点で、伴走者として当事者に寄り添った、きめ細かい支援が求められます。現状、ほとんどの補助金、助成金は単年度単位で、震災復興支援も年々少なくなっています。中長期的に継続的に事業を実施していくため、組織の更なる基盤強化が必要と考えています。

Q 認定NPO法人の特性を活かした今後の活動についてお聞かせください。

A 提供する活動をさらに充実し、社会的に広く認知されたNPO法人になると同時に、認定NPO法人に寄付をすることで税制優遇が得られることを多くの人に知ってもらい、個人だけでなく企業などからも安定的にご寄付をいただけるような認定NPO法人になりたいと思います。

●最後に認定NPO法人を目指しているNPO法人へメッセージをお願いします。

「認定」を受けることは大変ですが、とても意義のあることだと思います。また、「認定」を受けて終わりではなく、その後の努力も非常に重要だと感じます。共に頑張っていきましょう。



イベント用商品レンタル会社でのジョブトレーニング



安積歴史博物館でのキャリア教育講座

認定特定非営利活動法人 キャリア・デザイナーズ

TEL 024-973-5667

URL <http://npocd.jp/>

認定特定非営利活動法人 福島市 ふくしま成年後見センター

「認定特定非営利活動法人ふくしま成年後見センター」は、成年後見制度の普及及び啓発等を行い、誰もが共に生きることのできる社会の実現をめざして活動しています。平成21年に法人格を取得、平成25年に認定を取得しました。代表理事の國井輝夫さんにお話を伺いました。

Q 認定を受けて、どのような効果や事業の展開がありましたか。

A 認定の効果としては、会員の事業に取り組む姿勢が積極的になったことがあげられます。また、対外的には、組織がしっかりしていて、成年後見等に真剣に取り組んでいる団体として信頼されるようになり、成年後見に係る相談や申立手続等の支援依頼等が増加していることがあげられます。

Q 寄付金、会員数、事業収入などに数値の変化がありましたか。

A 認定以来、退会者が減り会員は年々増え続け、現在70名強になっております。また、たすけあい事業等の新規事業の開設ともあいまって、事業収入が徐々に増えています。寄付については会員からの寄付が中心で一般市民からはごくわずかですが、団体の地道な活動を理解していただければ徐々に増えるものと長い目でみています。

Q 課題は何ですか。

A 高齢者・障がい者等が判断能力が不十分になっても、人が人として共に生きることができるよう、成年後見の普及・啓発を図り、利用してもらうための地道な一層の努力を重ねていくことが課題であり、使命であります。

Q 認定NPO法人の特性を活かした今後の活動についてお聞かせください。

A NPO法人を設立した理念に従い活動を展開していきますが、成年後見の周辺事業も取り込みながら新規事業も立ち上げ実施していきます。具体的には、生活支援事業・手続支援事業・任意後見等支援事業からなる“たすけあい事業”の一層の強化です。

●最後に認定NPO法人を目指しているNPO法人へメッセージをお願いします。

NPO法人が事業を展開するには、まず団体の組織がしっかりしていること、すなわち認定をとることは、信用を得るための前提条件です。頑張ってください。



市民後見人養成講座



福島市中央公民館文化祭での事業説明

認定特定非営利活動法人 ふくしま成年後見センター

TEL 024-535-5451

URL <http://fukushima-kouken.com/>

平成28年度NPO強化を通じた若者定着・地域活性化事業 『チャレンジインターンシップ事業』 すべての“出会い”は“ありがとう”



平成28年度は32名の高校生、大学生がNPO活動にチャレンジしました。11月20日に行われた報告会・閉講式では各NPO法人や出席者がインターンの成長した姿に感心し、夏休み中の活動を懐かしむように目を細めていたのが印象的です。また、今年度はコカ・コーライーストジャパンのご支援により、行政と企業、さらにNPOとの協働が実現し、運営の充実を図ることができました。本事業を体験した学生が福島県の復興の担い手として活躍することを期待します。

6月6日(日)~6月24日(金)
学生募集



募集パンフレットを見て
応募した学生32名全員が
チャレンジスタート!

7月中旬

**学生選定・団体
とのマッチング**

開講式、緊張した
横顔で活動への決意表明。
どんな夏休みが待って
いるのか...



7月26日(水)

開講式



イベントは影の力が
大きいことを体感。皆が楽しむ
ためには私にできることを
ガンバルこと

7月下旬~9月上旬

**インターンシップ
実施**



活動の原動力は
子どもたちの笑顔。
手をつなぐと心も
つながるね

11月20日(日)

報告会・閉講式

画像や作文で活動報告。
当日、受験や資格試験で
やむを得ず欠席した学生は
ビデオレターで参加



「チャレンジインターンシップ」ウェブサイト <http://f-intern.f-saposen.jp/>
に活動のようすを掲載中です。ぜひご覧ください!



チャレンジインターンシップ動画
活動のようすは、こちら



NPO × 若者 = 復興!!

魅力ある地域づくりは NPOからはじめよう

**特定非営利活動法人
よつくらぶ
(いわき市)**

**日常を大切にできる
まちづくり**

国道6号線沿いに年間利用者50万人を数える道の駅「よつくら港」があり、その管理運営を行っているのが特定非営利活動法人よつくらぶです。開館の翌年3月11日東日本大震災の津波による甚大な被害を受けましたが、見事復活してまちの活性化の拠点として期待が高まっています。今回はよつくらぶ道の駅よつくら港の白土健二駅長と新妻智子さんにお話を伺いました。

平成20年に「四倉ふれあい市民会議」の発足を機に地域住民や経営者が「海」「山」「里」「まち」に視点を置いたランドデザインを作



(左)白土健二駅長
(右)新妻智子さん

成しました。その実現の第一歩として網蔵を改装して物産館を移転させることができました。平成21年には交流館を開館、同年には有志がNPO法人を設立、翌22年7月には道の駅がオープンしました。
しかし、わずか7カ月後に発災、3・11の津波では、第一波より第二波による被害が大きく、施設は砂で埋め尽くされました。白土駅長の自宅も被害を受けて「もう、やめようか...」という思いが巡りながらも何とか立ち上がり、ようやく砂を運び出す作業に取り掛かりました。そこへ以前に交流があった奥会津の皆さんが駆けつけてくれ、次々と応援が増えていき、100人もの方々が共に汗を流してくれました。やがて施設は見事に復活、「チャイルドハウスふくまる」という

あらたな施設も加わり、現在ではまちの復興のシンボリック存在となっています。
白土駅長は最後に「これからです...ここがまちの拠点としてみんなで存在や価値を共有して、まちの小さなカテゴリーがどんどん繋がっていくようにしていきたいです」と、未来に目を向けて話してくれました。そして新妻さんは「めげずにまたここで『日常』を続けることが必要です。いつもと変りなく大丈夫だよ」と、それを確認するように「ここに集まる場所を創り続けていきたいです」と穏やかな表情にしっかりとした口調で話してくれました。

お二人とも次の担い手と未来を見据えながら、社会貢献の域を遥かに超えた意識の中で、四倉への郷土愛を滲ませていました。



(上)国道6号線に立つ道の駅よつくら港への案内標識
(下)道の駅よつくら港外観

ファンドレイジング 「資金調達」を学んでお悩み解決

その2

～NPOの要の1つ「ファンドレイジング」～

ファンドレイジング2

今回は、「NPO(民間非営利活動組織)の資金調達」=ファンドレイジングにおいて支援性の高い財源が重要であるということを紹介しました。今回は、資金調達と団体の成長戦略の関係について考えます。

資金調達というと「どうやってお金を集めるか」ということに注目しがちですが、ファンドレイジングは単にお金の集め方を考えることではありません。ファンドレイジングは団体の中長期計画とともに考える必要があります。なぜでしょうか。

皆さんの団体は、なぜ資金を必要としているのでしょうか。「事業を継続していくため」「新事業を始めるため」「スタッフの賃金を確保するため」。では、それらの事業や賃金は何のために必要なのでしょうか。

NPOがおこなう活動の究極の目的は、そのNPOが理想として思い描く社会(ビジョン)を実現することです。NPOは、ビジョンを実現するために自分の団体が果たすべき役割・使命(ミッション)を自覚し、その達成のためにさまざまな活動をおこないます。事業や賃金は、ビジョンを実現するための手段にすぎません。

ファンドレイジングもまた、ビジョンの実現をするために必要な資源(お金、人、物など)を獲得するための手段です。そのためファンドレイジングにおいては、団体のビジョンやミッションを再確認し、その実現に向けた戦略をしっかりと設計することが重要です。それを整理せずに資金調達に取り組んでも、ゴールや道順を知らないままマラソンを走るようなもので、いつまでたっても成果は生まれません。

ファンドレイジングでは、資金調達のための様々な手法に注目がしがちですが、それらを実際におこなう前に、まずはビジョンやミッションをしっかりと整理することから始めましょう。また戦略を設計していく上では、自団体について振り返り、団体の強みや課題を整理することも必要です。

ビジョンとその実現に向けた戦略を整理することは、支援者の視点からも重要です。

助成や寄付などの行為は、「投資」という側面があります。それは、「よりよい社会」に対する投資です。『寄付白書2015』(注)によれば、寄付者が寄付先を選ぶときには「寄付金の使い道が明確で、有効に使ってもらえること」「活動の趣旨や目的に賛同・共感・期待できること」を重視しています。団体のビジョンに共感し、その実現のための戦略に納得することで、支援者はNPOに「投資」するのです。

注 『寄付白書2015-Giving Japan 2015』、2015年、日本ファンドレイジング協会編

【ワーク】

自団体のビジョン・ミッションを確認するために
 に文言を入れて文章を完成してみましよう

- ビジョン(理想として思い描く社会)
 (誰) (どんな状態の)

が 社会

- ビジョンを実現するために解決すべき課題

- ミッション
 (上の課題を解決するために自団体が果たすべき役割・使命)

8月

○平成28年8月2日(火)～9月9日(金)
 チャレンジインターンシップ受入団体、学生取材訪問
 団体:16団体(県北6団体、県中7団体、会津2団体、いわき1団体)
 学生:32名(高校生11名、大学生21名)

○平成28年8月23日(火)
 わたしのチカラ、社会のカチ(講座)
 ・いわき市文化センター

8月23日(火)には随時受付をしているNPOなんでも相談からNPO法人3.11被災者を支援するいわき連絡協議会に依頼を受け、人材育成・ファシリテーションなどを含んだ、団体の組織基盤の強化につながる総合的な講座を開催しました。



9月

○平成28年9月6日(火)
 平成28年度 第2回地域活動団体中間支援センター情報交換会開催
 ・郡山市労働福祉会館 大ホール

NPO法改正の説明と、県内各中間支援センターの近況報告及び活発な意見交換の場となりました。

○平成28年9月28日(水)
 NPOの役員・事務局長講座
 「機能する事務局と理事会とは?」事務局と理事会のあり方を考える
 ・喜多市厚生会館 第3研修室

特定非営利活動法人喜多市市民活動サポートネットワークの協力で特定非営利活動法人山形の公益活動を応援する会・アミルの代表理事齋藤和人氏を講師にむかえ開催しました。

11月

○平成28年11月8日(火)
 平成28年度 第3回地域活動団体中間支援センター情報交換会開催
 ・福島市 ラコバふくしま 中会議室A

福島県NPOのつどいを開催するにあたり、人がつどいことの結果や効果について市民活動フェスティバルを開催しているセンターに発表いただきました。

○平成28年11月17日(木)
 スペシャリストのためのNPO会計基準講座
 ・郡山市 ミューカルがくと館 大ホール

県内の税理士、行政書士、公認会計士を対象に53名に参加いただきNPOへの理解を深める一歩となる会計基準講座を開催しました。

○平成28年11月20日(日)
 チャレンジインターンシップ受入れ団体意見交換会・活動報告会・閉講式
 ・郡山市 ビッグパレットふくしま コンベンションホールB

1月

○平成29年1月13日(金)
 ファンドレイジング・白熱教室(講座)
 ・福島市市民会館 301号室



○平成29年1月19日(木)
 福島県社会福祉協議会との連携
 平成28年度 NPOと社協の連携作戦会議(本誌P12)
 「NPOと社協が協働する意義とは」
 ・郡山市 福島県農業総合センター 大会議室

2月

○平成29年2月2日(木)
 福島県NPOのつどい(本誌P1～3)
 ・福島市市民会館 第2ホール



○平成29年2月16日(木)
 SNS講座「フェイスブックを学ぼう!」(初～中級編)
 ・郡山市ミューカルがくと館 大ホール

10月

○平成28年10月3日(月)
 SNS講座「フェイスブックを学ぼう!」(初～中級編)
 ・会津美里町公民館

○平成28年10月4日(火)～12月13日(火)
 人材育成講座 全6回
 第1回非営利組織概論、第2回アイデア発想法入門、
 第3回アイデアファシリテーション入門、第4回プレゼンテーション入門、
 第5回コミュニケーション入門、第6回企画書・申請書ライティング入門

○平成28年10月6日(木)～12月15日(木)
 NPOマネジメント講座 全6回
 第1回組織使命、第2回マーケティング戦略、第3回ゴール設定、
 第4回ファンドレイジング戦略、第5回実行計画、第6回最終成果発表会

10月からは講座開催が多く、3日(月)はみさとねっとの協力で初級から中級の方を対象にフェイスブックについて学ぶSNS講座を開催し、翌4日(火)からは人材育成講座が福島市市民会館で、6日(木)からはNPOマネジメント講座を郡山市ミューカルがくと館で、全6回講座で行いました。



12月

○平成28年12月22日(木)
 NPO基礎講座「市民活動でみんな元気に! =NPOでGO!」
 ・須賀川市産業会館 2階

12月に入り10月から隔週で開催してきた、全6回の連続講座も13日(火)に人材育成講座が15日(木)にNPOマネジメント講座が終了となりました。22日(木)には須賀川市市民活動サポートセンターの協力で、37名の方にご参加いただきNPOの設立や市民活動について学びました。あらためて自分たちの団体や社会参加について考える良い機会でした。



盛りだくさんの内容で連携にはずみ

～NPOと社協の連携作戦会議を終えて～

認定特定非営利活動法人ふくしまNPOネットワークセンター 理事長 牧田 実

去る1月19日、福島県農業総合センターにて、「NPOと社協の連携作戦会議～NPOと社協が協働する意義とは～」が開かれました。全体は三部構成になっており、第一部は「NPOと社協が連携する意義とは」と題する基調報告、第二部はトークセッション「NPO・社協～それぞれの役割と協働について」、第三部がグループワーク「自分たちの地域が抱える課題とその解決に向けて」という盛りだくさんの内容でした。

私は、基調報告と第二部の進行を務めました。基調報告では、①なぜいま連携・協働なのか、②社協と連携・協働、③NPOと連携・協働について、簡潔に論じ、この会議の目的が連携・協働についての基礎知識と実践へのヒントを得ることにあるとお話ししました。第二部では、「白河市災害ボランティアセンター設置運営マニュアル」を協働で作成した特定非営利活動法人しらかわ市民活動支援会の斑目康平氏と白河市社会福祉協議会の齋藤克則氏のお話

しを伺いました。①連携・協働は組織と組織の関係だが、その基本は人と人の信頼関係にあること、②マニュアル作成という共通目標の下に、自立・対等・補完という連携・協働のルールを遵守した取り組みがなされたこと、③事業終了後も組織と組織、人と人の良好な関係が保たれていることなど、興味深いお話を聞くことができました。第三部は、ふくしま地域活動団体サポートセンター統括の齋藤美佐氏をコーディネータとする全員参加のグループワーク。これはけっこう盛り上がっていました。

参加希望者も多く（キャパの関係で少なからずお断りせざるをえなかったとのことで、時間もいささか短く感じられる熱気に満ちた会議でした。



第二部トークセッションの様子

主催：福島県社会福祉協議会 共催：ふくしま地域活動団体サポートセンター

助成金情報

チャレンジしてみよう!



これからでも申し込みできる助成金情報です。内容は抜粋していますので、詳細については、実施団体やホームページでご確認ください。

◇環境の保全、地域安全、子どもの健全育成、その他支援

2017年全労済地域貢献助成事業 【支援元／全労済】

対象事業／(1)自然災害に備え、いのちを守るための活動 (2)地域の自然環境・生態系を守る活動
(3)温暖化防止活動や循環型社会づくり活動 (4)子どもや親子の孤立を防ぎ、地域とのつながりを生み出す活動
(5)困難を抱える子ども・親がたすけあい、生きる力を育む活動

●申込期間／平成29年4月5日(水)必着 ●上限金額／総額2,000万円予定 1団体あたり30万円

●参考URL／<http://www.zenrosai.coop/zenrosai/topics/2017/21547.html>

◇その他支援

大塚商会ハートフル基金 復興応援プロジェクト2017年 【支援元／株式会社大塚商会】

対象事業／東日本大震災の被災地復興につながる活動、または被災者支援につながる活動

●申込期間／平成29年4月9日(日) ●上限金額／1件につき50万円(総額300万円)

●参考URL／<https://www.otsuka-shokai.co.jp/corporate/csr/news/2017/170301.html>

※その他の助成金情報については当センターのホームページをご覧ください。

URL:<http://f-saposen.jp/category/subsidy/>

ふくしま地域活動団体サポートセンター

運営委託：福島県企画調整部 文化スポーツ局 文化振興課

運営受託：認定特定非営利活動法人ふくしま NPO ネットワークセンター

〒960-8043 福島県福島市中町 8 番 2 号 福島県自治会館 7 階

TEL.024-521-7333 FAX.024-523-2741

E-mail saposen@f-npo.jp URL <http://www.f-saposen.jp>

◆県内の認証NPO法人団体／899団体

◆仮認定NPO法人団体／3団体

◆認定NPO法人団体／17団体

平成29年3月10日現在

編集後記

昨年5月にサポセンへ配属となり、初めての業務にとまどいながら過ごした1年でした。ニュースレター vol.2も皆さまのご協力のおかげで発行することができました。取材等でお世話になった皆さま、ありがとうございました。

【櫻井】